

## アイガー北壁初登攀クライマーと政治との距離とは

OWCC 中川和道 20200219

救助体験記をひと休みして、アイガー北壁初登攀の後日談を書く。存在するはずだと噂には聞いていたハラー、ヘックマイヤーらとヒトラーの集合写真を西本武志さん(労山前会長)のご自宅で、ついに見つけたからだ。今回はこれを取り上げよう。

2008年のドイツ映画「アイガー北壁」などでご存知かも知れないが、1936年ベルリンオリンピックの金メダルが授与されるとのことで同年7月18日に2パーティーが挑んだものの失敗し、映画と内容は違うのだが、全員死亡という悲惨な結果に終わった。初完登したのは1938年7月24日に登攀を開始したヘックマイヤー(12本アイゼン着用)、フェルクのドイツ隊とハラー、カスパレクのオーストリア隊。彼らは途中で合同し初完登に成功した。その様子は、『白い蜘蛛 アイガーの北壁』横川文雄訳 白水社 1960に詳しい。中川はこの本を何度も読んで心躍らせた世代である。みなさまの中には、『チベットの七年 ダライ・ラマの宮廷に仕えて』福田宏年訳 白水社 1981や、そのアメリカ映画版『セブン・イヤーズ・イン・チベット』(Seven Years in Tibet, 1997年)での主演ブラッド・ピット(日本語吹替 山寺宏一)なら知っているという方もおられよう。

その集合写真とはこれだ。

アイガー北壁初完登者4名は直ちに飛行機でベルリンに運ばれ、ドイツの威信を示す勇敢な行為としてヒトラー総統の表彰を受け、この集合写真におさまることとなった。中央に仁王立ちしているのがヒトラーで、その右がハインリヒ・ハラー、左端がアンデルル・ヘックマイヤーである(と中川は読み取るのだがこれで正しいのだろうか?)。



2000年にピット・シューベルト氏が来日され百丈やぐらで制動確保の技術交流をしたさい、「中川たちはDer Weisse Spinne『白い蜘蛛』を読んで大いに触発され、アルパインクライミングの世界に入り込んだ。新聞記者が「21時、4人はまだ登っている」と会話する場面があるのだが、なんで夜の21時に望遠鏡で見えるのかと、当時は不思議がって友人と議論したものだ」と話したら、ピットさんは「よく読んでくれた」と握手してくれた。「ごめん、実は、まだ登ってない。先に7100mを登りに行っちゃったから。」と答えると「…………」。

ハラーはこの功績を買われてナンガ・パルバットの遠征隊に加わる。イギリス軍に逮捕されるものの脱走してチベットに逃げ入り、何と、幼少のダライ・ラマの家庭教師を務めるのである。「ハラー ダライ・ラマ」でネット検索をかけると、2人の後年の交流の様子が分かる。

映像画像は饒舌なまでに雄弁だ。祖国オーストリアがナチスドイツに占領されていた時代に、その優れた登攀能力でアルプスを駆け抜け、アイガー北壁を初完登し、おそらくそれゆえにナチス親衛隊に入隊していったハラー。この写真をながめつつハラーやヘックマイヤーの生きざまを考える時、大変な時代を大変なタイミングで生きたクライマーたちの心中をつくづく、思う。